



SONY

2006年度

連結業績見通し修正

2006年10月19日

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービスをソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強、およびゲーム分野における新しいプラットフォーム開発・導入のための多額の投資を回収できること、(5)ソニーがエレクトロニクス分野で人員削減やその他のビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に十分な経営資源を適切に集中させられること、(8)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否、および(9)ソニーと他社との合併、提携の成否、などです。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

FY06.2Q 連結業績（暫定版）

（億円）

	FY05.2Q	FY06.2Q	前年同期比
売上高および営業収入	17,116	18,500	+8%
営業利益（損失）	746*	-210**	-
税引前利益（損失）	954	-260	-
持分法による投資利益（損失）（純額）	-26	200	-
当期純利益	285	20	-93%
構造改革費用***	329	50	-85%

* FY05.2Qの営業利益には厚生年金基金の代行返上益735億円が含まれる。

** FY06.2Qの営業損失にはノートブックPC用電池パックの回収ならびに自主交換の費用約510億円が含まれる。

*** 構造改革費用は営業費用に含まれる。

3

Sony Corporation Investor Relations

FY06 連結業績見通し

（億円）

	FY05	7月時点の見通し	FY06 見通し	7月時点比増減
売上高および営業収入	75,106	82,300	82,300	-
営業利益	2,264	1,300	500	-62%
うち、構造改革費用	1,387	500	400	-20%
税引前利益	2,863	1,500	700	-53%
持分法による投資利益（純額）	132	400	400	-
当期純利益	1,236	1,300	800	-38%

為替レート	FY05 実績レート	FY06.2Q以降 前提レート	FY06.3Q以降 前提レート
1 ドル	112.3 円	113 円前後	114 円前後
1 ユーロ	136.3 円	136 円前後	145 円前後

4

Sony Corporation Investor Relations

FY06 営業利益 修正要因

